

令和6年
2024年

11月14日
木曜日

第11595号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



一般社日本生ハム協会が第10回「生ハムの日2024」を開催。……P5

- ▶ 酪肉近の見直しに向け、飼料や家畜防疫など課題整理一畜産部会 …… P 2
- ▶ 牛マルキン9月、肉専用種では43都道府県で交付、豚マルキンは交付なし …… P 3
- ▶ [鶏肉需給動向・9月] 推定出回り量は前年比0・8%増 …… P 4
- ▶ 牛枝のさばきを学ぶ、九州業務卸組合が技術研修会 …… P 4
- ▶ USSEC、アメリカ大豆バイヤーズアウトLOOK会議を開催 …… P 5
- ▶ JCHAが第10回「生ハムの日」エキスパート資格認定授与式、過去最多の20人合格 …… P 6
- ▶ 北海道旭川市で鳥フル、採卵鶏約4万4千羽殺処分一農水省 …… P 6
- ▶ 第71回近畿東海北陸連合肉牛共進会最優秀賞に京都丹波牧場、近江谷口牧場 …… P 7
- ▶ 伊藤執行役員「豪州事業は環境の後押しを受け、引き続き販売を強化する」—日本ハムの2025年3月期中間決算説明会④ …… P 8
- ▶ 「定食屋 宮本むなし」、滋賀郷土料理「鴨鍋定食」を販売開始 …… P 8
- ▶ 【関東の輸入豚肉現物相場】 …… P9
- ▶ 【関東の国産豚肉現物相場】 …… P9
- ▶ さんわグループ鶏肉寄贈20年の節目に愛知県知事に目録贈呈 …… P 9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 14日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 14日 …… P11

注目のヘッドライン

酪肉近の見直しに向け、飼料や家畜防疫など課題整理一畜産部会

農林水産省は13日、食料・農業・農村政策審議会畜産部会(令和6年度第7回)を開催した。

…詳細はP2

牛マルキン9月、肉専用種では43都道府県で交付、豚マルキンは交付なし

…詳細はP3

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回

2025食肉産業展

2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

ご来場をお待ちしております!



肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● 2025年3月11日(火) ⇒ 14日(金)

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール 主催 ● 食肉産業展実行委員会 後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

同時開催

アジア最大級の食品・飲料総合展示会
The 50th International Food and Beverage Exhibition
FOODEX JAPAN 2025

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

食肉産業展東京事務局 ☎03-3663-2011

酪肉近の見直しに向け、飼料や家畜防疫など課題整理一畜産部会

農水省は13日、食料・農業・農村政策審議会畜産部会(令和6年度第7回)を開催。畜産部会では、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」(酪肉近)の見直しに向けた議論をテーマごとに進めており、今回は「飼料」に関わる現状と課題の整理のほか、「担い手確保、技術・経営」「労働力」「家畜防疫」「アニマルウェルフェア(AW)」「環境負荷低減」などについて整理をした上で、意見交換を行った。また、同日の会議では、新たな家畜改良増殖目標(第12次)、家畜排せつ物法に基づく基本方針の見直し、養豚農業振興法に基づく基本方針の見直しについて検討状況などが説明された。

冒頭、松本平畜産局長は「まず、国内で鳥インフルエンザ、豚熱発生状況について触れさせていただきたい。鳥インフルエンザについては、例年より早いペースで発生が続いている。豚熱についても、今月愛媛県での発生が確認された。われわれも感染拡大防止に向け、一丸となって取り組んでいる。強い危機感を持ち対応していきたい」と呼びかけた。続いて、農水省から酪肉近にかかわる現状を踏まえて、各テーマ・項目の論点について次のとおり説明した。

《飼料関係》【過度な輸入依存からの脱却】国際情勢に左右される輸入飼料への過度な依存から脱却し、畜産経営の安定を図るためには、地域の実情や需要に応じた国産飼料確保が必要【担い手の確保】飼料生産に関わる労働力不足に対応するため、オペレーター育成・確保、年間を通じた業務・収益の確保、作業機械の導入など飼料生産組織の運営強化が必要【持続的な飼料生産の確保】草地飼料や大区画化などの草地基盤整備の着実な実施、良質で栄養価の高い飼料作物の作付け拡大により、飼料の生産性の向上を図っていくことが需要【飼料生産技術の向上】スマート農業技術の開発・普及を促進することが重要【国産粗飼料の流通・販売】耕種と畜産が偏在する中、限られた農地をフル活用し飼料の生産・利用を拡大するため、効率的な飼料輸送や販売時の品質表示を図っていくことが重要【飼料も含めた地域計画の策定】各地に適した生産・利用を拡

大するため、「地域計画」の協議に畜産関係者も参加し、計画に飼料生産を位置付けて取り組むことが重要【配合飼料の安定供給】不測の事態において、生産者に安定的に配合飼料を供給するため、民間の継続的支援や輸入先国の多様化を検討することが必要【飼料輸送の合理化】飼料輸送にかかる作業負担削減や長時間輸送削減などの飼料輸送の合理化を図っていくことが必要一など。

《その他の項目》【担い手の確保など】就農への支援、省力化の推進、外部支援組織の強化を統合的に支援が必要。また、担い手の定着や経営改善のため、自治体や農業組織によるICTや獣医組織を活用したデータに基づく指導を推奨していく必要がある【労働力】生産現場での省力化機器の導入の推進が必要。また、外国人材活用に向け、サポート体制などの充実が重要。外部支援組織の維持・強化に向け、運営の安定や人材の確保・育成・定着が課題【家畜防疫】海外からの悪性伝染病の侵入防止のため、水際対策の強化、相手国での周知など重層的な対応が必要である。また、発生予防に重点を置いた取り組みが重要【AW】生産現場における指針の取組状況の把握のための調査を実施。その結果を踏まえ、将来的に「実施が推奨される事項」の目標達成年を設定するなど、生産現場における指針の普及・定着を図る必要がある【環境負荷低減】国際的な動きや消費者ニーズに対応するため、「みどり認定」「Jクレジット制度」および環境負荷低減の取り組みの「見える化」を推進し、生産および消費の両面からGHG排出削減を推進する必要がある【国民の理解醸成】生産コストが上昇する中、国産の畜産物が引き続き消費者に選択され、持続的な畜産物生産が可能となるよう、畜産の意義や生産者が行う努力などを伝え、国民理解を得ていく必要があるなど。

なお酪肉近における議論は、今回の会議をもってテーマ別の審議は終了となる。次回、酪肉近についての部会は来年1月を予定しており、これまでの議論を整理した上で、次期法制案を示していく。

(意見交換の内容は後日掲載)

牛マルキン9月、肉専用種では43都道府県で交付 豚マルキンは交付なし

農畜産業振興機構は13日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の令和6年度9月分の標準的販売価格および標準的生産費、交付金単価(確定値)を公表した。

肉専用種については、標準的生産費が標準的販売価格を上回った43都道府県で交付される。肉用牛1頭当たりの最高交付金単価は、北海道の16万825・5円。次いで群馬県が13万6628・1円、東京都が12万6106・2円、埼玉県が12万3229・8円、茨城県が12万458・7円、福島県が11万3536・8円、秋田県が11万1984・3円、山梨県が11万1066・3円、宮城県で11万815・2円と関東、東北ブロックで高い。なお、岐阜県、兵庫県は都道府県標準販売価格が規定の算出額を上回ったため、単独で標準的販売価格の算定を行っている。

交雑種については、標準的生産費が75万9540円となり、標準的販売価格の75万3373円を上回ったため5550・3円が交付される。乳用種も生産費が51万9233円となり、販売価格の46万1329円を上回ったため、5万2113・6円が交付される。

また、肉豚経営安定交付金(豚マルキン)の第1～2四半期分については、肉豚1頭当たりの標準的販売価格が4万8970円となり、標準的生産費の4万2737円を上回ったため、交付金(確定)はない。

肉用牛1頭あたりの交付金単価の算出結果(全国)

区分	単位:円/頭	
	交雑種	乳用種
標準的販売価格(A)	753,373	461,329
標準的生産費(B)	759,540	519,233
差額(C)=(A)-(B)	△ 6,167	△ 57,904
交付金単価(確定値)	5,550.3	52,113.6

※交付金単価は差額に100分の90を乗じた額

肉用牛1頭あたりの交付金単価の算出結果(肉専地域別)

区分	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
標準的販売価格(A)	1,094,059	1,098,393	同左					1,109,275
標準的生産費(B)	1,272,754	1,209,108	1,189,211	1,221,521	1,222,820	1,192,475	1,224,545	1,243,118
差額(C)=(A)-(B)	△ 178,695	△ 110,715	△ 90,818	△ 123,128	△ 124,427	△ 94,082	△ 126,152	△ 133,843
交付金単価(確定値)	160,825.5	99,643.5	81,736.2	110,815.2	111,984.3	84,673.8	113,536.8	120,458.7

栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	新潟県
1,109,275	同左								1,160,401
1,245,446	1,261,084	1,246,197	1,222,243	1,249,393	1,229,700	1,232,682	1,231,155	1,207,358	1,205,745
△ 136,171	△ 151,809	△ 136,922	△ 112,968	△ 140,118	△ 120,425	△ 123,407	△ 121,880	△ 98,083	△ 45,344
122,553.9	136,628.1	123,229.8	101,671.2	126,106.2	108,382.5	111,066.3	109,692.0	88,274.7	40,809.6

富山県	石川県	福井県	岐阜県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県
1,160,401	同左		1,364,797	1,139,428	同左		1,150,173	同左	
1,193,350	1,193,043	1,183,500	1,223,313	1,207,915	1,209,562	1,181,568	1,235,768	1,205,838	1,320,366
△ 32,949	△ 32,642	△ 23,099	141,484	△ 68,487	△ 70,134	△ 31,395	△ 85,595	△ 55,665	175,567
29,654.1	29,377.8	20,789.1	—	61,638.3	63,120.6	28,255.5	77,035.5	50,098.5	—

奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
1,150,173	同左		1,138,108	同左			1,145,103	同左	
1,256,873	1,205,049	1,242,231	1,216,340	1,228,566	1,203,792	1,198,313	1,180,076	1,207,561	1,148,113
△ 106,700	△ 54,876	△ 104,123	△ 78,232	△ 90,458	△ 65,684	△ 60,205	△ 34,973	△ 62,458	△ 3,010
96,030.0	49,388.4	93,710.7	70,408.8	81,412.2	59,115.6	54,184.5	31,475.7	56,212.2	2,709.0

高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
1,145,103	1,121,963	同左						1,196,401
1,083,995	1,206,049	1,198,145	1,203,135	1,211,913	1,187,997	1,187,095	1,191,495	1,154,188
61,108	△ 84,086	△ 76,182	△ 81,172	△ 89,950	△ 66,034	△ 65,132	△ 69,532	42,213
—	75,677.4	68,563.8	73,054.8	80,955.0	59,430.6	58,618.8	62,578.8	—

【鶏肉需給動向・9月】 推定出回り量は前年比0・8%増

農畜産業振興機構が発表した2024年9月分の鶏肉需給動向によると、推定出回り量は18万8404t(前年同月比0・8%増)と前年同月を上回った。このうち国産品は13万7856t(0・1%増)となり、輸入品も5万548t(2・7%増)と増加した。

国内生産量は13万5916t(0・1%増)と前年を上回り、輸入量も4万9125t(1・6%増)で増加。推定期末在庫は国産品が3万3154t(10・3%増)、輸入品が13万6518t(3・0%増)で、合計16万9672t(4・4%増)となった。

[鶏肉需給]

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量			
			輸入物	国産物	輸入物	国産物		
4年	5	140,591(101.6)	52,176(121.9)	119,053(97.8)	30,516(89.4)	48,824(96.7)	141,237(103.0)	
	7	133,177(96.9)	45,620(101.9)	121,128(106.5)	28,884(83.6)	43,545(82.6)	134,809(98.4)	
	8	133,324(101.6)	47,374(100.9)	121,213(108.8)	28,502(81.7)	47,289(96.1)	133,706(102.1)	
	9	135,582(99.0)	46,798(103.5)	121,217(112.7)	25,844(76.5)	46,788(95.4)	138,240(100.1)	
	10	144,773(99.2)	53,930(105.3)	127,502(117.8)	25,218(72.7)	47,645(94.2)	145,399(100.3)	
	11	144,253(98.1)	49,783(86.2)	129,939(113.3)	23,373(69.7)	47,346(92.3)	146,098(98.6)	
	12	153,097(97.4)	44,279(73.0)	124,180(108.5)	24,644(69.5)	50,038(82.1)	151,826(97.8)	
	5年	1	137,012(99.8)	44,361(82.5)	125,588(101.9)	24,433(69.6)	42,953(95.5)	137,223(99.7)
		2	133,529(98.5)	47,115(95.0)	128,113(99.1)	24,979(73.7)	44,590(102.5)	132,983(97.3)
		3	142,908(99.4)	47,545(105.3)	126,853(101.4)	27,049(83.2)	48,805(99.1)	140,838(97.0)
		4	139,306(98.7)	47,412(108.8)	119,503(102.8)	27,547(87.9)	54,762(104.5)	138,808(97.5)
		5	142,849(102.8)	51,717(121.7)	127,502(110.2)	29,343(94.2)	43,718(101.5)	141,053(101.4)
6		141,735(100.9)	57,706(110.6)	133,613(112.2)	28,598(93.7)	51,595(105.7)	142,480(101.0)	
7		133,663(100.5)	46,686(102.3)	129,613(107.0)	30,604(106.0)	50,686(116.4)	131,657(97.8)	
8		133,703(100.4)	55,955(118.1)	133,334(110.0)	31,998(112.3)	52,234(110.5)	132,309(99.1)	
9		135,797(100.3)	48,372(103.4)	132,497(109.3)	30,049(116.3)	49,209(105.2)	137,746(99.8)	
10		145,552(100.5)	47,805(88.6)	130,926(102.7)	29,754(118.0)	49,376(103.6)	145,847(100.3)	
11		146,801(101.8)	39,181(78.7)	119,960(92.3)	30,873(132.1)	50,147(105.9)	145,682(99.7)	
12		155,398(101.5)	50,981(115.1)	115,660(93.1)	33,551(136.1)	55,281(110.5)	152,720(100.6)	
6年	1	140,093(102.0)	54,687(123.3)	125,877(100.2)	31,152(127.5)	44,470(103.5)	142,492(103.5)	
	2	144,552(108.0)	55,395(117.6)	124,137(96.9)	34,868(139.6)	57,135(128.1)	140,836(105.6)	
	3	143,802(100.4)	52,670(110.8)	129,110(101.8)	36,868(136.3)	47,697(97.7)	141,802(100.5)	
	4	146,411(104.8)	52,006(109.7)	127,057(106.3)	35,506(128.9)	54,059(98.7)	147,773(106.2)	
	5	147,168(103.0)	53,259(103.0)	131,041(102.8)	36,263(123.6)	49,275(112.7)	146,411(103.8)	
	6	143,169(101.0)	49,373(85.6)	133,066(99.6)	36,708(128.4)	47,348(91.8)	142,724(100.2)	
	7	139,722(104.5)	51,778(110.9)	133,594(103.1)	35,468(115.9)	51,250(101.1)	140,962(107.1)	
	8	130,029(97.3)	56,697(101.3)	137,941(103.5)	35,094(109.7)	52,350(100.2)	130,403(98.6)	
	9	135,916(100.1)	49,125(101.6)	136,518(103.0)	33,154(110.3)	50,548(102.7)	137,856(100.1)	

牛枝のさばきを学ぶ、九州業務卸組合が技術研修会

九州食肉業務用卸協同組合(清田浩徳理事長)は13日、大分県豊後大野市の県畜産公社で牛枝肉のさばきを学ぶ研修会を開き、組合員ら約40人が参加した。食肉流通経営体質強化促進事業の一環で、次世代の技術者を養成するのが狙い。

冒頭、清田理事長は「ボックスミートの取引が主流の現在、実務で枝肉のさばきを学ぶ機会が少なくなった。これを機に枝肉に関する知識や技術を習得し皆さまの経営に役立ててほしい」とあいさつ。研修会では肉牛の解体作業など一連の処理工程を視察した後、日本食肉格付協会の格付員が実際の枝肉を

前にその評価の判断基準などについて詳しく解説。その後、熟練者の手ほどきを受けながら牛枝肉の分割や骨抜き作業にいそしんだ。

なお前日は飲食店経営に詳しい専門家ら複数の講師を招き、座学講習会(会場:大分市のミートクレスト社)も併せて実施している。



USSEC、アメリカ大豆バイヤーズアウトロク会議を開催

USSEC (アメリカ大豆輸出協会) は12日、東京都港区のホテルオークラ東京で「アメリカ大豆バイヤーズアウトロク会議2024」を開催した。米国産大豆の品質や市況をメインテーマとするカンファレンスで、米国大豆の購買者らに向け、作付けや生産、収穫に加え、世界の需給動向など、幅広く最新情報を提供する内容となった。

冒頭、USSEC日本代表の西村允之氏 (上写真) は「この会議では、米国産大豆の新穀の品質や、米国および世界の大豆需給について、最新情報を提供する。今後の米国産大豆の調達にとって重要なものになると思う」とあいさつ。続いて、USSEC市場アクセス&戦略エグゼクティブ・ディレクターで北東アジア地域ディレクターのロズ・リーク氏、在日米国大使館農務官のクレグ・エリオット氏があいさつした。

まず、農水省大臣官房新事業・食品産業部食品製造課の二井敬司課長補佐が、日本の最新大豆需要動向を説明。近年は国産大豆の生産量や作付面積は増加傾向で、豆腐や納豆のほか、飼料としても使われており、食肉生産にも関連がある。日本の大豆輸入相手国のうち、輸入量は米国が最も多く、長年安定的に大豆を輸入している。天候要因やバイオ燃料需要の高まりに関わるリスクも潜在する中、食料安全保障上、米国との信頼関係はますます重要となる。

次に米国大豆生産者のパネルディスカッションも行われ、USSECのリーク氏がモデレーターを務め、全米大豆基金財団 (USB) のトーマス・フリッシュ理事、アメリカ大豆協会 (ASA) のカンザス州代表でもあるチャールズ・アトキンソン理事が、サステナブルな生産方法や今後の展望について議論した。

さらに、「グローバルな大豆概況2024~25」と題した講演では、コバンク社のナレッジ・エクスチェンジ研究チームで穀物および油糧種子の主任エコノミストを務めるタナー・エムケ氏が登壇。世界の大豆生産量・消費量が記録的に多く、増加傾向にあること、米国では輸出売り上げが伸びていることなどが、詳しく解説された。

続いて、ミネソタ大学のセス・ネイヴ准教授が「2024年産アメリカ大豆の品質 一般大豆とNon-GMOの新穀大豆」を解説。コーンベルト地帯を中心



とする各地域について、気温や降水量を要因とする、大豆のタンパク質含量への影響などを説明した。大豆は複雑で変動の激しい作物であり、価値を評価するには多面的な視点が必要としている。

オランダに本社を置くInnova Market Insightsのトム・ヴィアハイル副社長は「グローバルな食とエシカル消費のトレンド」を主題として、日本と韓国の動向を解説した。説明によると、動物由来の肉・乳製品の代替品として、植物由来製品が増えたものの、味や食感、価格の問題のほか、人工的な食品であることが原因で需要の高まりは一度落ち着きをみせた。日本では食品・飲料製品のうち大豆成分を含むものは19%で、韓国では23%となっており、日本では過去5年間で0.5%しか伸びていないが、韓国では同期間に10%強も上昇したというデータがある。日本の特徴としては、おからパウダーに代表されるような、従来廃棄物であったものを有効活用することへの注目度が高い。

さらに、リーク氏がSSAP認証 (アメリカ大豆サステナビリティ認証) の最新情報に関する報告に加え、米国産大豆にかかわる概況を多角的に説明。その後、日本植物油協会の片桐薫専務が会議を総括すると、最後にはアトキンソン氏があいさつし、閉会となった。

JCHA が第 10 回「生ハムの日」 エキスパート資格認定授与式、過去最多の 20 人合格

一般社団法人日本生ハム協会(JCHA)は11日、東京都内のレストランで第10回「生ハムの日2024」を開催。関係者をはじめ、駐日スペイン大使館、イタリア大使館の商務担当者、外食事業者、メディアなど、多くの参加者が出席する中、生ハムエキスパート資格認定試験合格者の認定証授与式が行われた。エキスパート資格者は、生ハムの製法の違いを説明できる知識とカットの専門的技術を必要とし、今年も過去最高の20人の合格者が生まれ、累計の有資格者は49人となった。

冒頭、同協会の服部津貴子最高顧問は、「関係者の皆さまが熱心に日本に生ハムを紹介したことで、日本人の口に入るようになり、すごくうれしく思っている。これからも生ハムをたくさんの方に愛していただきたい」とあいさつを行った。続いて、駐日スペイン大使館商務アタッシュのアルトゥーロ・ランス氏、イタリア大使館商務アタッシュのアナ・イレレ氏が登壇。ランス氏は「生ハムの需要は確実に伸びていて、長期熟成ヨーロッパ産の生ハムの独自の価値を区別し、消費を促進することがまさに重要な時期となっている。この機会に協会の献身的な活動と貢献に心から感謝申し上げる」と述べた。

乾杯の音頭を花田利喜専務理事が行ったあと、会場では、エキスパートによりカットされたスペイン産の「ハブーゴ産イベリコハム・デ・ベジョータ」「ギフエロ産イベリコハム・デ・セボ・デ・カンポ」「ギフエロ産イベリコハム・デ・セボ」「ハモン・セラノーグラン・レセルバ」4種と、国産の生ハム「群馬県産とんとこ豚の生ハム」「小豆島産オリーブ豚の生ハム」2種のほか、ワイン、シェリー酒、スペインのビール・



マオウなどが提供された。

イベント中、時間内にカット技術を競い合うカットコンテスト、生ハムやワインなどの豪華景品が当たるじゃんけん大会などが催され、会場は大いに盛り上がった。

JCHAの渡邊直人代表理事(下写真)は「生ハムは、ムードフードといわれ、食べると楽しくなる成分が入っている。ぜひ、笑顔で帰っていただきたい。今後ともこの生ハム協会の活動が続けられるようにご支援をお願い申し上げます」と述べ、閉会した。

北海道旭川市で鳥フル、採卵鶏約4万4千羽殺処分—農水省

農水省は12日、北海道旭川市の家禽農場で、今シーズン国内8例目となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜を確認したことを発表した。

これを受け、同農場の採卵鶏約4万4千羽が殺処分となる。

第71回近畿東海北陸連合肉牛共進会 最優秀賞に京都丹波牧場、近江谷口牧場

第64回農林水産祭参加・第71回近畿東海北陸連合肉牛共進会が10日、神戸市中央卸売市場西部市場で開催された。1952年(昭和27年)に初開催され、当初は生体審査だったが93年(平成5年)から枝肉審査となり、以後、年に1度、京都市中央卸売市場第二市場と交互に開催されている。肉量に対し、肉質を2倍評価する独自の基準が設けられており、モノ不飽和脂肪酸含有量の測定も行われた。

今回、静岡県13頭、岐阜県10頭、三重県12頭、滋賀県20頭、京都府20頭、兵庫県25頭の計100頭(雌52頭、去勢42頭)の黒毛和種が出品された。

このうち去勢牛の最優秀賞・農林水産大臣賞には、京都府の(有)京都丹波牧場出品牛を選出。同社グループの受賞は驚異の通算10度目でいずれも去勢牛。雌牛の最優秀賞には、滋賀県の近江谷口牧場(株)が初めての受賞を果たした。その後に行われた臨時競りで、京都丹波牧場の最優秀牛はキロあたり1万2500円で京都府の食肉卸・小売(株)銀閣寺大西が、近江谷口牧場の最優秀牛は1万5100円で滋賀県の食肉小売チェーン「肉のげんさん」(元三フード(株))が落札した。

臨時競り市には、各府県の有力食肉卸・小売が数多く集まり、地元産地や生産者の支援や年末を見据えた優れた牛を求めて活発な競りが繰り広げられ

た。各地から集まった生産者も、控え室のテレビ中継で競りを見守った。

京都丹波牧場の最優秀牛は、長崎県の壱岐家畜市場で導入。生体重量300kg程度で、今回同社が出品した牛の中では小ぶりだったが、同社の平井和恵社長(上写真)は「筋肉質で背中も六つに割れていた。身が詰まっていて皮下脂肪があまり付かなかった。月齢を長く飼うので肉色が濃くなりやすいが、血統の良さが表れた」と語った。同社は飼養頭数900頭でうち80頭が繁殖母牛。雌が3割で去勢が7割と去勢牛を主力に扱う。

近江谷口牧場の最優秀牛は、鹿児島県・曾於中央家畜市場導入。尻の形や肩付きなど全体的に良く気に入ったことから、競り合いになって勝ち取った牛だとしている。谷口仁司社長(下写真)は「念願がかない、このような賞をいただき感無量。牛の力に感謝申し上げたい」と喜びを語った。同社は雌牛肥育のみ220頭を飼養。



開催に当たり近畿東海北陸肉牛協会の福本博之名誉会長は「歴史と伝統のあるこの共進会が今後も発展することは、各県のブランド力がさらに高まり、畜産経営が安定することのつながるものと確信している」と強調し、関係者に謝辞を述べた。

入賞牛の出品者は表のとおり。格付はすべてA5。

入賞牛の出品者は表のとおり。格付はすべてA5。

入賞牛の出品者は表のとおり。格付はすべてA5。

	褒賞	産地	出品者	月齢	枝肉重量(kg)	販売単価(円)	購買者
雌牛の部	最優秀賞	滋賀県	近江谷口牧場	31	551	15,100	肉のげんさん
	優秀賞1席	静岡県	堀内慎也	31	567	3,810	JA静岡経済連小笠食肉センター
	同2席	兵庫県	上田伸也	44	451	9,130	牛匠上田 上田畜産
	同3席	三重県	にしそわ牧場	30	528	3,470	元祖伊賀肉金谷
	優良賞1席	静岡県	渡邊	32	491	3,230	エスフーズ京滋営業所
	同2席	滋賀県	鈴木牧場	30	501	3,540	JA全農しが食肉製造販売課
	同3席	静岡県	武友沙千子	31	574	3,200	JA静岡経済連小笠食肉センター
	同4席	静岡県	大井寿生	29	517	3,220	中村屋総本店
	同5席	静岡県	すずき牧場	29	555	3,230	浜松ハム
	去勢の部	最優秀賞	京都府	京都丹波牧場	30	616	12,500
優秀賞1席		滋賀県	三重加藤牧場蒲生牧場	28	646	3,010	エスフーズ京滋営業所
同2席		静岡県	野島泰雄	31	642	3,030	京都食肉販売
同3席		京都府	京都丹波牧場	30	642	4,810	京都協同管理食肉流通センター
優良賞1席		岐阜県	うし和牧場	29	542	3,820	ながせ食品
同2席		京都府	西川貴大	31	597	3,500	京都協同管理物産市場アトリオ
同3席		京都府	平井正子	27	626	3,510	京都協同管理食肉流通センター
同4席		京都府	丹波清光ファーム	31	645	3,420	エスフーズ京滋営業所
同5席		静岡県	杉浦浩務	28	604	3,060	京都食肉販売

伊藤執行役員「豪州事業は環境の後押しを受け、引き続き販売を強化する」 —日本ハムの2025年3月期中間決算説明会④

日本ハムがこのほど行った2025年3月期第2四半期決算説明会見での、伊藤忠明執行役員海外事業本部長(写真)による海外事業本部の概況説明は次のとおり。

当社の海外事業は豪州やトルコでの食肉事業、北米・アジアでの加工品事業、日本向けの原料調達の一つで柱を展開している。上半期は増収増益で終わることができた。増収の大きな要因は豪州の牛肉事業で売上げが大きく伸びたこと。現地ではキャトルサイクルが好転しており、この追い風を受けている。また、北米での加工品の製造販売は、米国でのマーケットに合わせてしっかりと伸長できた。増益については牛肉の生産販売の増加によるものが大きい。現地相場が想定以上に高く推移したことも影響した。一方で、ブランド展開を強化しており、相場に左右されないブランド牛肉の価値訴求も進めている。

通期の事業売上高は3400億円(前年同期比17.3%増)、事業利益は70億円(184.6%増)を見込んでいる。まだまだ国内と比較すると小さい数字ではあるが、日本の成熟したマーケットと比較すると海外のマーケットは成長段階にあるため、今後も引き続き伸長を続けていきたい。



豪州事業においては、現地の生産頭数や販売相場など環境の追い風が強い中で、しっかりと販売を伸ばしていく。日本向けの商品では「大麦牛ANGUS」のブランド浸透を図り、高品質な商品群を提供していく。米国ではキャトルサイクルがダウントレンドに入っているため、米国向け牛肉(プレミアムグラス)の販売を拡大していく。

米州事業においては、加工品の販売に注力する。米国は人口3億人強の市場であり、日本ハムが日本国内で培った知見を現地マーケットに落とし込み、商品の展開を広げていく。現時点でも生産能力をフル活用しているため、今後の事業進捗次第では製造強化にも取り組んでいく必要がある。(連載終わり)

「定食屋 宮本むなし」、滋賀郷土料理「鴨鍋定食」を販売開始

M&Sフードサービス(株)(大阪市、夏井克典社長)が運営する定食チェーン「定食屋 宮本むなし」はこのほど、滋賀県の郷土料理「鴨鍋定食」(税込み990円)を期間限定で販売開始した。肉質が軟らかくコク深い味わいが楽しめる合鴨を使用し、脂と野菜のうまみがとけ込んだコクと甘みのある濃厚なダシがしみわたる一品。

「鴨鍋」とは農水省選定「農山漁村の郷土料理百選」に選ばれた滋賀県の郷土料理で、寒い冬を乗り切るために脂をたくわえた鴨肉を野菜や豆腐などと煮込んだ伝統的な鍋。

同店では、肉質が軟らかくコク深い味わいが楽しめる合鴨を使用し、脂と野菜のうまみがとけ込んだコ

クと甘みのある鍋定食に仕上げた。合鴨の脂がとけ込んだコクと甘みがたまらない濃厚なダシを、最後の一滴まで楽しめるように「鴨鍋定食 雑炊セット」(1100円)も用意。また、もっと鴨肉を楽しみたい人のために、「鴨鍋定食 鴨肉大盛」(1290円)、「鴨鍋定食 鴨肉大盛 雑炊セット」(1400円)もラインアップしている。



【関東の輸入豚肉現物相場】 Cは全体的に堅調、Fは荷余り感も

【フローズン】鍋物需要が本格化しており、量販店などの売り場でも解凍スライス品が並べられるケースも散見され、ベリー等の荷動きは悪くない。また、国産冷凍在庫が逼迫しており、一部では代替需要などもみられる。ただ、在庫水準は依然として高い状態にあり、アイテムによっては荷余り感もみられる。

【チルド】為替は1ドル=150円を超える円安が続いており、さらに入船遅れや港湾ストなどの影響により、年末年始の需要期に向けて供給面の不透明感もみられる。一方、引き続きベリーなどを中心に引き合いは強く、ロイン系やスソ物を含めて全体的に荷動きはまずまず。

【輸入豚肉現物相場】(関東中間冷蔵庫渡し)
キロ/円(税抜き)

	◎米国产		気配
フ	クッションミート	730中心	→
	テンダーロイン	850中心	→
◎カナダ産			
ロ	ショート・ボックス	780中心	→
	ウデ	750中心	→
	モモ	750中心	→
◎デンマーク産			
ズ	ベリー	900中心	→
	カラー	880中心	→
	ロインMM	870中心	→
	テンダーロイン	860中心	→
◎フランス産			
ン	シートベリー	900中心	→
	カタロース	880中心	→
◎米国产			
チ	ロイン(FLON)	780中心	→
	CCロイン	780中心	→
	ヒレ(船便)	1,050中心	→
	山付ベリー	1,200中心	↗
◎カナダ産			
ド	ボックス	820中心	→
	テンダーロイン	1,130中心	→
	ベリー	1,150中心	↗

【関東の国産豚肉現物相場】 Cはバラなど動く、Fは需給締まる

豚熱など疾病の発生もみられるものの、全国的に

【関東の国産豚カット肉相場】円/キロ

生鮮物	
カタロース	1,030~1,100
ウデ	730~800
ロース	980~1,060
バラ	1,080~1,180
モモ	740~800
ヒレ	980~1,080
冷凍物	
カタロース	870~930
ウデ	670~730
ロース	880~930
バラ	980~1,000
モモ	680~730
ヒレ	880~930

ようやく出荷頭数が増加基調となってきたおり、今週に入って枝肉相場は急落している。年末を前に需要には一服感が出る時期である

が、バラやカタロースなどのアイテムには引き合いが増えている。スソ物の荷動きも堅調。ロイン系はそれほど強くない。

フローズンもバラを中心に引き合いは強く、カタロースやロイン系の荷動きも良化している。引き続きギフト製品向けの引き合いなどもみられ、スソ物もまずまず動いている。一方でチルドからの凍結回しが少なく、在庫は低水準の状態が続いており、全体的に需給は逼迫している。

さんわグループ鶏肉寄贈 20年の節目に愛知県知事に目録贈呈

さんわグループでは2005年の(株)さんわコーポレーション設立50周年を機に、社会貢献活動として愛知県内の児童養護施設など、福祉施設の人々に毎年鶏肉寄贈を行っている。20年目となる今年は235施設、1万544人に対して1150kgの国産鶏肉を寄贈する。

同社は経営理念の一つに「社会との調和」を掲げており、寄贈を通して社会から歓迎されるような存在

であることを願うとともに役職員自らが参加することで社会貢献活動を行うことの重要性和継続の必要性を学べる“さんわならではの独自性のある社会貢献活動”に取り組んでいる。

20日、愛知県公館で「愛知県目録贈呈式」を開催し、大村知事に目録を贈る。12月6日には日蓮宗大乗山法音寺で同社の古川翔大代表が寄贈を行う。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月13日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,462	3,026	2,273	1,921	-
		安値	2,239	2,218	1,977	1,894	-
		平均	2,691	2,445	2,151	1,910	-
	111頭	頭数	62	38	9	2	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	1,972	-	-
	1頭	頭数	-	-	1	-	-
	去 A	高値	3,298	2,593	2,278	1,943	-
		安値	2,255	2,112	1,817	1,620	-
		平均	2,607	2,383	2,199	1,799	-
	180頭	頭数	109	47	21	3	-
去 B	高値	-	2,285	-	-	-	
	安値	-	2,154	-	-	-	
	平均	-	2,218	-	-	-	
2頭	頭数	-	2	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,727	1,614	1,454	-
		頭数	-	3	14	12	-
	雌 C	平均	-	-	-	1,481	-
		頭数	-	-	-	2	-
	去 B	平均	-	1,745	1,623	1,533	-
頭数		-	2	8	10	-	
去 C	平均	-	-	1,595	1,499	-	
3頭	頭数	-	-	2	1	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 430	1,044 970	- 459.0	(競り)	(相対)	64

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和雌 A	平均	2,559	1,721	1,469	1,334	-
	平均	1,662	1,524	1,404	1,247	1,082
和去 A	平均	2,540	2,324	2,053	1,838	-
	平均	-	2,123	-	-	-
乳雌 B	平均	-	-	-	866	845
	平均	-	-	-	849	819
乳去 B	平均	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
交雌 B	平均	-	1,720	1,544	1,426	-
	平均	-	-	1,532	1,316	-
交去 B	平均	1,940	1,788	1,629	1,515	-
	平均	-	1,678	983	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	729	823	604	597	562
	安値	583	548	537	464	346
	平均	619	574	556	543	496
	頭数	(9)	(272)	(402)	(164)	(123)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 11月13日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和雌 A	2,524	2,402	-	-	-
(頭数)	(14)	(2)	(1)	(1)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(-)	(5)	(-)
和去 A	2,689	2,072	1,957	-	-
(頭数)	(14)	(2)	(1)	(-)	(-)
B	-	1,938	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳去 B	-	-	-	1,103	-
交雑雌 B	-	1,732	1,554	1,493	-
C	-	-	1,480	1,474	-
交雑去 B	1,933	1,717	1,583	1,502	-
C	-	1,676	1,533	-	-
豚	-	540	492	418	449

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表(頭)

	11月13日	11月12日	(11月累計)
豚	69,100	69,900	553,800
成牛計	5,330	5,220	39,780
和牛雌	1,450	1,170	10,030
和牛去勢	1,580	1,410	10,660
乳牛雌	700	860	5,970
乳牛去勢	630	570	4,110
交雑雌	410	560	4,130
交雑去	550	600	4,770

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月13日

	1,577円	(前日 1,567円)
東京		
大阪	1,381円	(前日 1,623円)

[豚・全農建値] 11月13日

上	中	取引頭数	市況
565円	545円	1,295頭	強もちあい

と畜 売買	牛 99頭	豚 124頭	牛概況	もちあい
	牛 98頭	豚 147頭	豚概況	急落

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月13日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	6,109	-	もちあい
仙台 [中]	568 (617)	508 (567)	478	55	急反落
宇都宮 [地]	- (-)	509 (-)	1,680	28	-
茨城 [地]	567 (575)	548 (555)	1,320	663	反落
群馬 [地]	557 (560)	498 (505)	2,488	523	小幅反落
さいたま [中]	557 (558)	543 (544)	197	197	もちあい
東京 [中]	574 (561)	556 (553)	1,044	970	続伸
横浜 [中]	564 (562)	538 (541)	654	654	もちあい
山梨 [地]	602 (639)	599 (606)	146	107	反落
浜松 [地]	542 (539)	470 (464)	293	41	もちあい
名古屋 [中]	582 (577)	545 (553)	933	196	もちあい
京都 [中]	- (621)	- (595)	-	-	休市
大阪 [中]	540 (598)	492 (526)	124	147	急落
神戸 [中]	- (633)	- (641)	135	-	-
岡山 [地]	691 (680)	648 (643)	282	273	強気配
広島 [中]	586 (588)	544 (547)	108	64	もちあい
福岡 [中]	573 (579)	542 (544)	497	168	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月6日～11月12日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,729,308 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,118	1,242	1,296	1,229	82,752
うで	734	813	839	804	143,013
ロース	1,080	1,182	1,244	1,165	151,658
ばら	1,228	1,296	1,356	1,283	162,796
もも	750	788	815	789	220,280
ヒレ	1,105	1,118	1,257	1,145	21,572
セット	961	1,030	1,081	1,027	947,237

◇近畿圏 総重量 804,374 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,280	1,328	1,272	65,517
うで	702	745	810	751	128,633
ロース	1,062	1,188	1,253	1,176	113,832
ばら	1,242	1,282	1,319	1,279	135,639
もも	702	740	778	735	187,142
ヒレ	1,188	1,285	1,339	1,281	10,432
セット	899	1,004	1,068	990	163,179

[食鳥正肉日経相場] 11月12日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※木曜日は休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	644	684	799	152
ムネ	359	388	498	130

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	646	708	990	8
ムネ	364	418	550	5

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月12日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均	12日分は15日掲載				

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

日刊食肉速報

2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからも鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

紙媒体

A4版に
サイズUP!



**WEB
サービス版**

手軽に情報チェック!
バックナンバーも
探しやすい!



購読料は
そのまま!



仕様 | 11ページ
〈表紙〉カラー 〈中面〉モノクロ
発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)
6カ月 42,120円(税・送料込)

*写真はイメージです。

広告スポンサー募集

日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など
スポット告知に最適

ターゲットを絞った
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎03-3663-2011 ✉mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社